

2023年度 経営方針**「世界から期待される大樹を目指そう」**

2019年から実施していた中期経営計画「NITTOSEIKO Mission “G”」が終わり、本年から新しい中期経営計画が始まります。新しい中期経営計画の詳細については、次号、2月号で発表する予定ですが、ここでは本年、2023年をどのように舵取りをしていくかをご紹介します。



当社代表取締役社長
材木正己

まず中期経営計画「NITTOSEIKO Mission “G”」を簡単に総括いたします。

新型コロナウイルスやウクライナ情勢、円安、部材不足といった多くの課題に直面しながらも、新事業や新製品開発、グループ拡大、前例廃止プロジェクト、各種認定など、戦略に基づくさまざまな取り組みを実行しました。

目標の業績には届きませんでした。長期経営ビジョンである「世界中で認められ、求められるモノづくりソリューショングループ」に向けて、確実に前進できた4年間であったと考えています。各事業、各従業員一人ひとりがこれらの挑戦を改めて振り返り、次に目指す目標への挑戦に活かしていきたいと願っています。

今年卯年です。株式の相場には格言があり、子（ね）は繁栄、丑（うし）はつまずき、寅（とら）千里を走り、卯（う）は跳ねると言われています。この言葉通り、今年、卯年はさまざまな不安が解消し景気が回復し、業績がジャンプアップしていくことを期待したいところです。

成長戦略を継続させ 安定した財務基盤を確立

今年から日東精工グループの新しい中期経営計画「Mission G-second」がスタートします。長期経営ビジョンのセカンドステージとして、引き続き成長戦略を実践していきます。詳細は2月号で

紹介しますが、この中期経営計画の大きな特徴は次の3つです。

- ①目標達成に向けたインプット（投資や支出）の計画性をより一層高める
- ②重要な指標を選択・共有し、効果的なプロセス管理を実行する
- ③アウトプット（成果）を分析し、次のインプットにフィードバックする

これはPDCAの基本的な考え方ですが、新しい中期経営計画ではこのPDCAサイクルを日東精工及び日東精工グループ全体で実感できる環境や体制づくりを行います。また、収益体質の強化にも取り組み、成長を支える安定した財務基盤を確立します。

たとえば、グループの事業セグメントごとに戦略を設け、売上高（アウトプット）目標を掲げるのに加えて、注力する業界やユーザー層などを限定したグロースターゲット売上高を設定。グループ間で同じターゲットに絞って連携活動を行うことで、お客さまにとって、より効果的で効率的な販売活動を実践していきます。また、実践の効果をより早期に発揮するために、工場も一体になったお客さま目線による全員営業の体制づくりに取り組んでまいります。

環境戦略としては、グループ全体でのCO₂削減

目標を設定。持続可能な社会の実現のために、環境対応を当社の事業に直結させていきます。また、人は会社にとっての貴重な財産（人的資本）として考え、人財の育成や教育などの環境づくりをこれまで以上に充実させます。より収益性の高い会社になるために投下資本利益率（ROIC）を見直すなど、財務体質強化にも取り組んでいきます。



中期経営計画を樹木にたとえれば、どこに花を咲かせ、どのような実を育てるのか、環境を見据えてグループ全体で計画し、その成長過程を観察し管理する。同時に樹木の成長に耐えられる根っ

こを育て、強固な地盤をつくるということです。2023年の経営方針を「世界から期待される大樹を**目指そう**」としました。日東精工グループが実らせる果実を、世界中が期待する。そんな大樹を、グループの総力で育ててまいります。



大とちの木。こういった大樹が当社本社をおく綾部市郊外にはたくさん。画像／綾部市観光協会



NITTOSEIKO'S SDGS (サステナビリティ経営推進)

図書館に児童書を8年連続で寄贈 次代を担う子供の好奇心を育みます！

日東精工では2015年から毎年、綾部市図書館に児童書を寄贈しています。

これはもともと、当社の人財教育を一般向けにまとめた『人生の「ねじ」を巻く77の教え』（ポプラ社）の印税を原資にして始めたもので、その後も同書の印税をはじめ、当社代表取締役社長材木正己著『絆経営で目指す新しい地方創生』（扶桑社新書）などの書籍関連で得た収益をもとに実施しています。2022年度も12月11日に行われた図書館の「冬の集い」で約100冊を寄贈。人形劇を演じた福知山淑徳高校の高校生ボランティアや小さな子供たちとその保護者の方々といっしょに式典が執り行われました。

次代、次々代を担う子供たちの好奇心を育み、本を読む楽しさ、喜びを広げていく一助になればとい

う願いから行なっているものですが、これまで寄贈した本のカバーなどには当社から寄贈されたことが記されているので、本を閲読したり貸出ししたりするときに、子供たちが「ぼくのお母さんが勤めている会社だ」「わたしのおじいちゃんが工場で働いている」と誇らしげにするという話も耳にします。当社のCSR（地域貢献活動）やSDGsへの取り組みが、社員やその家族の誇りにもつながっています。



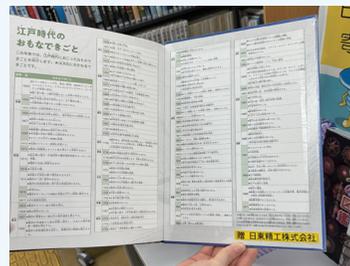
村上元良綾部市教育委員長に目録をお渡しする当社代表取締役専務荒賀誠（右）



小さな子供たち、高校生ボランティアといっしょに和やかな贈呈式



今年の寄贈本。毎年100冊前後を贈呈



本の裏表紙に当社寄贈の印しを入れていただいている

第13回クルマの軽量化技術展に出展します。

『第13回クルマの軽量化技術展』が来たる1月25日から27日まで東京ビッグサイトで開催され、当社も出展いたします。

「オートモティブワールド2023」のなかで「カーエレクトロニクス技術展」「コネクティッド・カーEXPO」「自動運転EXPO」などとともに開催される同展示会は、文字通りクルマの軽量化に必要なあらゆる素材・材料、加工技術、軽量部品などが一堂に集まる展示会。

当社ブースでは、薄板への圧入時に起こる反りを低減させる「クリンチングスタッドボルト」をはじめ、昨今クローズアップされているコンタミ問題を解消させる「CPグリップ」や「コンタミ対策ねじ締めロボット」、あるいは、ゆるみ止め・作業性など個性あふれる特性を備えた各種セルフタッピンねじ・ピンなどを出展いたします。



左は出展イメージ図、右は過去の出展事例

またボルトなどの部品検査選別装置「ミストルロボタイプ」、そして当社グループ企業の伸和精工やケーエム精工の製品（プレス品・ナット・ドリルねじなど）も展示し、あらゆる産業のニーズに応えるソリューション事例を披露いたします。

これまでの出展同様に実演・体験コーナーを設け、「新型クリンチングスタッドボルト」圧入体験、コンタミ対策ねじ製品「CPグリップ」のねじ締め性能評価などのデモンストレーションも行う予定です。



「受験生応援ゆるみ止めねじ」にたくさんのご応募いただいています

「受験生応援ゆるみ止めねじ」プレゼントキャンペーンの募集を今年度も開始しましたが、すでにたくさんのご応募をいただいています。12月、1月分の受付は終了し、残すところ2月1日受付開始分のみとなりました。今期も個人の応募だけでなく、学校単位のご応募もたくさんあり、またいろいろなメディアにもこのキャンペーンを取り上げていただきました。受験生の皆さんが樹脂用ゆるみ止めねじ「ギザタイト」のように、最後までしっかりと縮まる（気を引き締め）、集中力がとぎれないで実力が発揮できるよう祈念いたします。



キャンペーンのより詳しい内容や応募はこちらから



トップが率先して地域貢献、次世代育成に尽力しています

全国の高等専門学校制度創設60周年記念誌に、舞鶴高専OBとして当社代表取締役社長材木正己が寄稿しました。また2022年11月8日、京都産業21北部企業交流会「次世代につなげるイノベーション経営」が開催され、材木が「イノベーションを生み出す絆経営」というテーマでお話をすると同時に、懇親会では綾部商工会議所の新しい会頭として挨拶いたしました。今後もこういった形で、社のトップが率先して、地域貢献や次世代育成のために尽力してまいります。



左は高専制度創設60周年記念誌から抜粋／右は京都産業21 北部企業交流会



喜べば 喜びごとが喜んで 喜び連れて 喜びに来る

日 東精工が本社をおく綾部市淵垣にある林南院のご住職・田中利典さんは、じつは奈良・吉野の金峯山寺を世界遺産登録に導いた立役者のお一人です。

吉野は桜の名所として全国的に知られたところ。とはいえ、花の時期をのぞけば参拝客も観光客も少なく、しかも年々その数を減らしていたのですが、吉野の魅力をたくさんの人に伝えたい、そして「修験」そのものをもっと多くの人に理解してもらうにはどうすればいいかと思い、世界遺産登録が大きなきっかけになると考えられたのです。

田中利典さんは当時、金峯山寺の宗務総長として尽力されたのですが、地元の多くの人々がまさに〈灯台もと暗し〉で「ここに世界遺産になるほどの価値が本当にあるのか」と疑問視する声もあれば、すでに奈良県内では「法隆寺地域の仏教建造物」と「古都奈良の文化財」が世界遺産登録

されていたので、「奈良に3つめの世界遺産登録なんてムリ」といった否定的な意見もあったそうです。しかしそういう声に対し、丁寧に世界遺産登録の意義を説いてまわられ、結果、平成16年に金峯山寺は「紀伊山地の霊場と参詣道」の一つとして世界遺産に登録されることになりました。20年近く経った今も、お花見シーズン以外でも多くの人が吉野を訪れています。100年、200年ではなく1000年以上の歴史をもつ神社仏閣でさえも、ただ伝統にあぐらをかいているのではなく、時代のニーズに合わせて常に「変革」し続けているということがわかります。

☆

綾部は人口3万2000の小都市ですが、こういった立派な方をたくさん輩出しているのが嬉しいですね。

田中利典さんは、現在は金峯山寺の長脇として活躍される一方で、お父さまが創建され

た林南院を継いでおられます。その林南院に飾られた額の一つに「喜べば 喜びごとが喜んで 喜び連れて 喜びに来る」がありました。このことばの出典は、じつははっきりしないのですが、お父さまの得詮大僧正さんが気に入られたことばだったのでしょうか、揮毫されたものが飾られていました。いいことばだと思いますし、新年号に相応しいことばだと思います、ここに紹介させていただきます。

私は常々、従業員に「喜び

の感度を上げよう」と言っています。いいこと、うれしいことがあれば大いに喜び、それを皆で分かち合うこと、喜びを伝搬させていくことが大事です。ビジネスでは「Win-Win」の関係といますが、互いに利益が上げられるということではなく、さらに一歩進めて「Joy-Joy」（喜びを共有できる）関係まで深めていければと願っています。令和5年、これまで以上に喜びごとがたくさんありますようにと祈念します。

連載 59

あやべ ちよつと寄り道

「水源の里トレイルラン」
開催決定！

マラソンブームや登山ブームの波にのって、両者の要素を併せもつトレイルランが日本でも知られるようになりました。



第1回あやべ水源の里トレイルラン(48km,15km)

日東精工が本社をおくあやべでも「第1回あやべ水源の里トレイルラン」が4月9日(日)に開催されることが決定。たっぷり楽しめる48kmと、初心者でも安心な15kmの2コースが用意され、広く山々を見渡す絶景や稜線から眺める日本海、国宝光明寺二王門などを眺めながらのトレイルランが楽しめます。両方のコース併せて1000名募集ですから、地域全体が盛り上がる賑やかな大会になりそうですね。ただいまエントリー受付中です。
<https://fun-trails.com/race/ayabe/>

